

平成 30 年度海外情報講演会開催報告

今年度は、12月7日（金）、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、米国の最新の公園事情をメインテーマとした海外情報講演会を開催いたしました。

今回は、公園管理団体、造園建設業、コンサルタント、大学、自治体、国土交通省等から、幅広く100名を超える申込みがありました。

特に「収益の先の公共性を見据えた米国の公園」の赤澤教授のご講演では、たくさんの米国の事例をご紹介いただき、公園だけで考えるのではなく、まちづくりの発想で柔軟に対応すること、チャレンジしたいことには暫定的に試行してみるものの有効性など示唆に富むお話で、参加者の皆様からご好評をいただきました。

<平成 30 年度海外情報講演会>

日時：平成 30 年 12 月 7 日（金）13：30～16：30

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

主催：World Urban Parks ジャパン・（一財）公園財団

共催：（一社）日本公園緑地協会・（一社）公園管理運営士会

プログラム（CPD 2.8 単位）

13：30	開会		
	挨拶	World Urban Parks ジャパン会長／ （一財）公園財団 公園管理運営研究所長	有路 信
13：35	World Urban Parks 世界大会 2018 報告（メルボルン）		
		World Urban Parks ジャパン指名理事	小野 隆
14：10	WUP 大会開催地メルボルンの公園事情		
		World Urban Parks ジャパン事務局	嶺岸 さゆり
14：40	休憩		
14：50	米国の最新の公園事情		
	「収益の先の公共性を見据えた米国の公園」		
		兵庫県立大学教授（WUP ジャパン理事）	赤澤 宏樹
16：30	閉会		

平成 30 年度海外情報講演会

有路 WUPJ 会長からの開会挨拶の後、小野 WUPJ 指名理事より、すべての人のための活気にあふれる健康的な都市づくりについての WUP 前会長の基調講演や健康と住みやすさを改善する公園の役割などの発表、視察など WUP 世界大会の報告がありました。WUPJ 事務局の嶺岸からは、メルボルンの気候変動適応策の Urban Forest 戦略や雨水の貯留・活用と、メルボルン市の公園緑地についての発表がありました。

赤澤 宏樹教授 (WUP ジャパン理事) の講演では、様々な米国の事例が紹介されました。地域の価値を高める公園事例として Klyde Warren Park (テキサス州ダラス)、公共性が市場性を高めた事例として Brooklyn Bridge Park (ニューヨーク)、都市公園の均等配置論から「機会」の均等配置の事例として、学校の校庭や、高架下、コミュニティ・ガーデンなどの公園的利用の事例などがありました。また、縮退時代の公園・緑地の獲得戦略として暫定的な利用開発で試行してみることに、公園だけで考えるのではなく、発想を変えて柔軟に対応することの有効性についてお話があり、日本で実践出来そうな事例のヒントが提示されました。

「収益の先の公共性を見据えた米国の公園」講演概要

●地域の価値を高める公園事例 Klyde Warren Park (テキサス州ダラス)

この公園では、365 日無料イベントを行い、人が公園に来る土台をつくり、結果としてビジネスに最適な空間ができ、また分断された地域がつながり、周辺地域には大きな経済波及効果が及ぼされた。

公園への出店は若者のスタートアップの機会 (キッチンカー、コンテナで試してから) とし、新しい雇用を生むことができ、街中にあるチェーン店の支店ではなく、個性的な店が公園ならではの魅力を増している。

日本でも産業労働部などと連携して、地域の若者企業家にサウンディング調査したらどうかという提案がなされた。

●公共性が市場性を高めた事例 Brooklyn Bridge Park (ニューヨーク)

この公園の整備時には「維持管理はすべて独立採算」が条件となっており、公園の維持管理費は、園内に建設された住宅棟やホテルの土地の賃料、固定資産税相当の負担金、営業権収入等で賄われている。

運営主体は Conservancy (民間非営利組織)。

接している周辺エリアの特性に対応して、整備内容やマネジメントを変化させている。

●都市公園の均等配置論から「機会」の均等配置

徒歩圏内に都市公園を整備していくことには限界があり、公園だけで考えるのではなく、市民が求めているレクリエーションや癒しを「公園のような場所」で体験できるようにし、「機会」の均等配置を行っていくことが必要である。学校の校庭、高架下、農地 (コミュニティ・ガーデン) などの都市施設、オープンスペースを公園のように整備している事例が紹介された。

日本でも下北沢ケージなど実践事例がでてきている。

●縮退時代の公園・緑地の獲得戦略

未利用地をまずは借りて、暫定的な利用開発を行うことが必要である。

アメリカでは道路空間の広場化が主流となっているタクティカル・アーバニズムのように、公共空間でまずは新しい使い方を試行してみることに重要である。

ロサンゼルスでは、道路空間の広場化などの仮設キットがあり、試行しやすいようになっている。

キットは <http://peoplest.lacity.org/> からダウンロード可能。